はじめに

本報告書は、地域ニーズに応えるインフラ再生技術者育成のためのカリキュラム設計業務の「地域版学び直しプログラム」の開発・実証における“社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座”が終了した後に実施したシンポジウムである。

このシンポジウムでは、高知工科大学、四国地方整備局および愛媛県の社会インフラ老朽化の維持管理に関わる研究、現状および課題等について講演会を行うとともに、平成 27 年度の社会基盤ME養成講座の状況、ME 養成講座で得た成果及び愛媛 ME の会の設立と活動について報告を行った。これらの講演と報告の内容を取りまとめたものである。

平成 28 年 2 月吉日

愛媛大学防災情報研究センター
愛媛大学工学部環境建設工学科

日　時：2016 年 1 月 6 日（水）　15:00~17:20
場　所：愛媛大学南加記念ホール
参加者数：131 名
主催：愛媛大学防災情報研究センター、愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会
共催：愛媛大学工学部環境建設工学科

[ME 養成講座準備スタッフ]
矢田部龍一：愛媛大学防災情報研究センター長
吉井稔雄：愛媛大学防災情報研究センター　副センター長
森脇　亮：愛媛大学工学部環境建設工学科学科長
竹田正彦：愛媛大学防災情報研究センター　副センター長
山下祐一：愛媛大学防災情報研究センター　特定教授
全　邦釘：愛媛大学工学部環境建設工学科
大原暁子：愛媛大学防災情報研究センター　事務補佐員
水野千恵：愛媛大学防災情報研究センター　事務補佐員
泉　知子：愛媛大学防災情報研究センター　事務補佐員

[愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会]
愛媛大学防災情報研究センター／愛媛大学工学部環境建設工学科／国土交通省四国地方整備局／愛媛県土木部／愛媛県内 20 市町（自治体）／西日本高速道路㈱四国支社／(一社)愛媛県建設業協会／愛媛県土木施工管理技士会／(一社)建設コンサルタンツ協会四国支部／(一社)愛媛県測量設計業協会／(一社)全国地質調査業協会連合会四国地質調査業協会愛媛支部／愛媛県管工事協同組合連合会／(一社)全国特定法面保護協会四国地方支部愛媛県事務所／愛媛県法面工事業協同組合／NPO 法人愛媛県建設技術支援センター／愛媛県技術士会

１．社会基盤ＭＥ養成講座シンポジウム

1.1 シンポジウムの目的と意義

本シンポジウムは、社会基盤ＭＥ養成講座終了後、その成果を発表するとともに、高知工科大学、四国地方整備局、愛媛県から社会インフラ老朽化に対する研究、現状、課題及び対策に関する最近の取り組みや最新の情報等を得る事ができた。また、社会基盤 ME 養成講座の認定者からその成果を発表するとともに、新しく発足した「愛媛 ME の会」についての設立経緯や活動内容についても報告があり、今後の社会基盤 ME 養成講座にとって、大変有意義なシンポジウムとなった。

1.2 シンポジウムの概要

平成 28 年 1 月 6 日(水)15 時～17 時 20 分、愛媛大学南加記念ホールにおいて、平成 27 年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座シンポジウムを開催した。官公庁、民間を中心に、大学を含め 131 名と多くの方々に参加いただいた。

講演は、高知工科大学の那須清吾先生から「道路インフラマネジメントサイクルの汎用化と実装展開」、国土交通省四国地方整備局企画部の谷脇準蔵事業調整官から「点検結果の記録と健全性の診断」、愛媛県土木部の頼木清隆土木部長から「愛媛県の社会基盤の現状と今後の取り組み」の題目で講演をしていただき、社会インフラ老朽化に対する研究、現状、課題及び今後の対応など幅広い内容について示唆をいただき、今後の検討課題の参考となった。

次に、平成 27 年度の社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座の内容について、愛媛大学工学部環境建設工学科の森脇亮先生から養成講座の内容や今年度の ME 養成講座の受講生 22 名全員が ME 認定試験に合格したことが報告された。また、今年度の ME 養成講座で得た成果発表として、「橋梁についての管理方法について」(一社)四国クリエイト協会松山支所の高野俊宏君、「地域技術者の人材育成について」八幡浜市役所産業建設部建設課の小西佐知さんから ME２期生代表として提案報告が行われた。さらに、1 月 6 日付で地域住民の安全・安心の向上及び地域経済の健全な発展に寄与する目的で「愛媛 ME の会」を立ち上げたことや ME1 期生としての活動内容が ME1 期生代表で愛媛県土木部道路維持課の相原博紀さんから報告された。今後の社会基盤メンテナンスを推進する上で、大きな力となることが期待される。

シンポジウムの講演及び報告内容は、別途資料を添付するので参考にしていただければ幸いである。

1.3 プログラム

シンポジウムのプログラムは、次のとおりである。

愛媛大学・社会基盤メンテナンスエキスパート（ＭＥ）養成講座シンポジウム
－愛媛と四国の社会基盤を維持管理する技術者人材育成プロジェクト－

■日時：2016 年 1 月 6 日（水）15:00~17:20
■場所；愛媛大学城北キャンパス内 南加記念ホール
■プログラム

（1）開会挨拶
愛媛大学防災情報研究センター長　　矢田部龍一

（2）講演「地方自治体における道路資産のメンテナンスサイクル及び
マネジメントサイクル汎用システム開発と展開」
高知工科大学社会マネジメントシステム研究センター長　　那須清吾

（3）講演「点検結果の記録と健全性の診断」
国土交通省四国地方整備局企画部事業調整官　　谷脇準蔵

（4）講演「愛媛県の社会基盤の現状と今後の取り組み」
愛媛県土木部長　　頼木清隆

（5）報告「愛媛と四国のインフラを守る人材育成講座
～社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座～」
愛媛大学工学部環境建設工学科学科長　　森脇　亮
ME 養成講座で得た成果発表(ME２期生代表)

(6)「橋梁についての管理方策について」
(一社)四国クリエイト協会松山支所　　高野俊宏

(7)「地域技術者の人材育成について」
八幡浜市役所産業建設部建設課　　小西佐知

(8)「愛媛 ME の会」の発足について
愛媛県土木部道路維持課　　相原博紀

(9) 閉会挨拶
愛媛大学防災情報研究センター副センター長　　吉井稔雄

（司会：愛媛大学防災情報研究センター 副センター長　竹田正彦）
主催：愛媛大学防災情報研究センター、愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会
共催：愛媛大学工学部環境建設工学科

1.4　シンポジウム状況写真

矢田部龍一　センター長　挨拶

講演　那須清吾　高知工科大学

谷脇準蔵　四国地整事業調整官

頼木清隆　愛媛県土木部長

森脇　亮　愛媛大学

小西佐知　ME２期生

高野俊宏　ME２期生

相原博紀　「愛媛 ME の会」会長

吉井稔雄　副センター長　閉会挨拶

シンポジウム会場の様子

２．ME 認定証授与式

平成 27 年度のＭＥ認定授与式は、シンポジウム開催前の 1 月 6 日(水)午後 1 時から行われ、ＭＥ認定試験合格者に一人一人矢田部センター長から認定証が授与された。

ＭＥ認定試験は、12 月 8 日(火)の筆記試験と 12 月 15 日(火)のプレゼンテーション試験により審査され、合否が判定される。筆記試験は、論文試験と平成 27 年度は専門知識の問題が別途出題され、今後愛媛大学の認定資格とすることも想定して行われた。ＭＥ認定試験の合否は、社会基盤メンテナンスエキスパート(ＭＥ)審査委員会で審査され、愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会で承認された。

ＭＥ認定証の授与式の状況写真は次の通りである。また、平成 27 年度合格された方は、別表の通りである。

ＭＥ認定証授与の様子

ＭＥ認定授与対象者　22 名

平成 27 年度ＭＥ認定者 22 名と大学教員スタッフ

表—1　　平成 27 年度ＭＥ認定試験合格者

受講者番号	氏名	フリガナ
００１	伊藤　弘樹	イトウ　ヒロキ
００２	今井　美文	イマイ　ヨシフミ
００３	宇都宮　雄治	ウツノミヤ　ユウジ
００４	大西　貴佳	オオニシ　タカヨシ
００５	大野　哲也	オオノ　テツヤ
００６	岡部　綾子	オカベ　アヤコ
００７	奥野　真治	オクノ　シンジ
００８	小倉　和壽	オグラ　カズヒサ
００９	鎌倉　寛	カマクラ　ヒロシ
０１０	菅　隼人	カン　ハヤト
０１１	小西　佐知	コニシ　サチ
０１２	酒井　亨	サカイ　トオル
０１３	佐々木　利裕	ササキ　トシヒロ
０１４	須井　健次	スイ　ケンジ
０１５	高瀬　匡人	タカセ　マサト
０１６	高野　俊宏	タカノ　トシヒロ
０１７	竹本　安文	タケモト　ヤスフミ
０１８	中矢　真輔	ナカヤ　シンスケ
０１９	西森　幸弘	ニシモリ　ユキヒロ
０２０	藤本　憲洋	フジモト　ノリヒロ
０２１	宮脇　司	ミヤワキ　ツカサ
０２２	吉田　務	ヨシダ　ツトム

３.「愛媛 ME の会」の発足

「愛媛 ME の会」の設立説明会が、シンポジウム開始前の 1 月 6 日(水)13 時 40 分より開催され、ME１期生、ME２期生に承認され、「愛媛 ME の会」が設立した。

設立説明会では、ME１期生認定後の活動や ME２期生養成講座の協力やサポートを通じて、今後急速に増大する老齢化社会資本の長寿命化及び地域住民の社会資本に対する帰属意識高揚の促進を図り、もって地域住民の安全・安心の向上及び地域経済の健全な発展に寄与することなどが説明された。

この結果は、シンポジウムにおいて「愛媛 ME の会」の発足についてと題して、「愛媛 ME の会」の相原博紀会長が設立経緯と内容について報告した。